

技術概要書（様式）

※別紙2

| | | | | | | | | | | | | | | |
|--|---|-----------------|--------------|----|-----------------|--|-----|----|-----------------|-----------|----|----|-----------------|--|
| 出展技術の分類 | 安全・防災 インフラDX 維持管理 環境 コスト 品質 （該当分類に○を付記） | | | | | | | | | | | | | |
| 技術名称 | inMap | 担当部署 | 九州支社 事業推進部 | | | | | | | | | | | |
| NETIS登録番号 | 登録なし | 担当者 | 栗林 誠 | | | | | | | | | | | |
| 社名等 | 株式会社エイト日本技術開発 | 電話番号 | 092-686-9941 | | | | | | | | | | | |
| 技術の概要 | 1. 技術開発の背景及び契機 | | | | | | | | | | | | | |
| | <p>各種インフラ施設データは、台帳、カルテ、設計資料、点検調書、工事資料、申請資料など多くの資料があります。これらの施設データは、バラバラに管理（保管）されている場合が多く、知りたい情報やデータを探し出すことに時間を要しています。特に、災害や事故発生時などの緊急を要する場合は、目的の施設資料を探すことに時間がとられ、対策・対応における初動が遅れてしまうことも考えられます。</p> <p>エイト日本技術開発では、このような問題を解決するため、バラバラに管理（保管）されたインフラ施設の情報・データを取りまとめ、電子地図上にアイコンで落とし込むことにより、知りたい情報へ簡単にたどり着けるシステムを開発しました。</p> | | | | | | | | | | | | | |
| | 2. 技術の内容 | | | | | | | | | | | | | |
| | <p>本システムは、Windows エクスプローラー上に取りまとめた各インフラ施設の情報・データを、座標をもった電子地図上にリンクさせ、電子地図上で各種インフラ施設データを一括管理するシステムです。これにより、知りたい施設情報・データを地図上からダイレクトに確認することができます。データの増減・変更があった場合、そのデータをエクスプローラーに格納するだけで、自動的にシステムに反映されます。また、地図上での各施設の表示方法は、重要度や区分など様々な分類にフィルター表示、色分け区分することも可能です。さらに「KIMOTO360EDITORエイト日本技術開発機能拡張版」とリンクさせることにより、ストリートビューの感覚で各施設全体を確認することも可能です。</p> <p>なお、このシステムは座標管理されているため、現場にこのシステムをインストールした各種Padを携帯すれば、地図上に自分の位置が表示され、現場で分かりにくい施設にも簡単にたどり着け、現場で資料の確認ができます。</p> | | | | | | | | | | | | | |
| | 3. 技術の効果 | | | | | | | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・管理性の向上：地図上ですべての施設のデータを確認できるため、それぞれの電子納品成果品から資料を探す手間・時間を省くことができます。また、自分の位置が確認できるため、迷わず施設の現地確認が可能です。 ・視認性の向上：地図上ですべての施設が確認でき、施設ごとの重要度や区分などを地図上で視認できます。 ・管理者ファースト：施設の管理者により管理手法が異なるため、各管理手法に合致したシステム構築・サービスが可能です。 | | | | | | | | | | | | | | |
| 4. 技術の適用範囲 | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>①通常市販されている低スペックなノートPCで問題なく稼働（8GB以上のRAMと1.9GHz以上のCPUを推奨）</p> <p>②オフライン環境下でもシステムの稼働は可能。※QGISのバージョンアップが必要な場合はオンラインで地図情報をダウンロード</p> <p>③クラウドが使用可能な場合、システムをクラウド上に置くことで各ユーザーが使用でき、データの増減・変更もクラウドデータを書き換えるのみ</p> <p>④クラウドが使用不可能な場合でも、システムを各PCにインストールしてデータは共有ハードなどに格納することで使用可能</p> | | | | | | | | | | | | | | |
| 5. 活用実績 | | | | | | | | | | | | | | |
| <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%;">国の機関</td> <td style="width: 15%;">0件</td> <td style="width: 15%;">（九州 0件、九州以外 0件）</td> <td style="width: 15%;"></td> </tr> <tr> <td>自治体</td> <td>1件</td> <td>（九州 0件、九州以外 1件）</td> <td>※委託業務を遂行中</td> </tr> <tr> <td>民間</td> <td>0件</td> <td>（九州 0件、九州以外 0件）</td> <td></td> </tr> </table> | | | 国の機関 | 0件 | （九州 0件、九州以外 0件） | | 自治体 | 1件 | （九州 0件、九州以外 1件） | ※委託業務を遂行中 | 民間 | 0件 | （九州 0件、九州以外 0件） | |
| 国の機関 | 0件 | （九州 0件、九州以外 0件） | | | | | | | | | | | | |
| 自治体 | 1件 | （九州 0件、九州以外 1件） | ※委託業務を遂行中 | | | | | | | | | | | |
| 民間 | 0件 | （九州 0件、九州以外 0件） | | | | | | | | | | | | |

6. 写真・図・表

インフラデータ管理システム
inMap



図-1. 従来のデータ管理イメージ

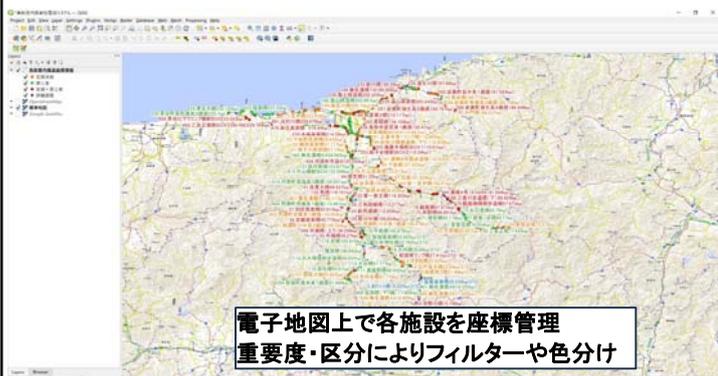


図-2. システムの全体地図イメージ

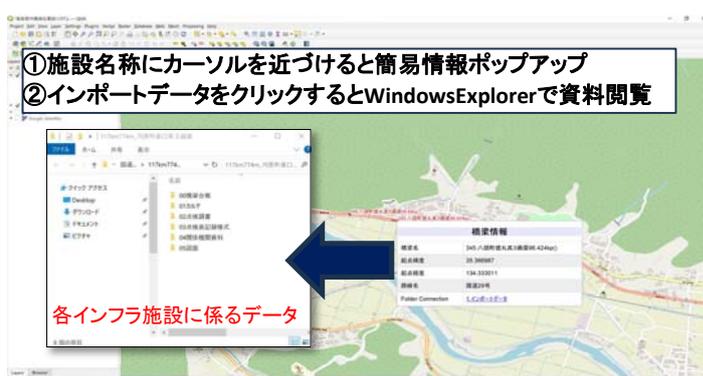


図-3. 施設のデータフォルダ画面



図-4. 施設全体を確認できる360度画像



図-5. 現場での使用イメージ